

京都府漁海況情報

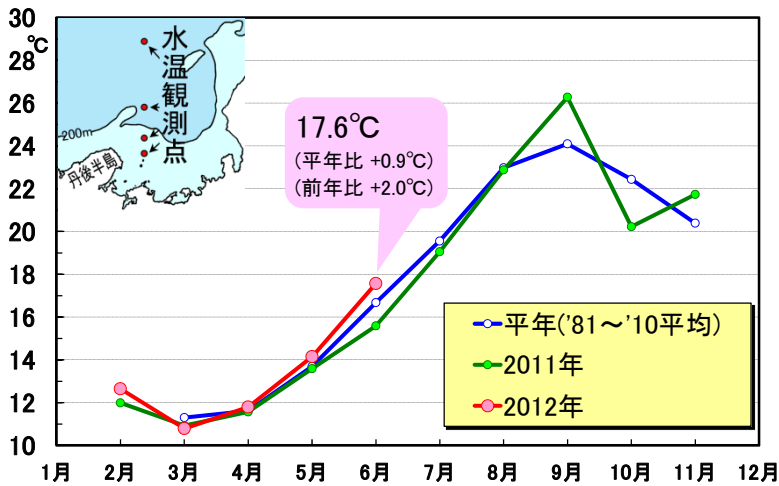
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話: 0772-25-3078 FAX: 0772-25-1532

海の状況

【現況】

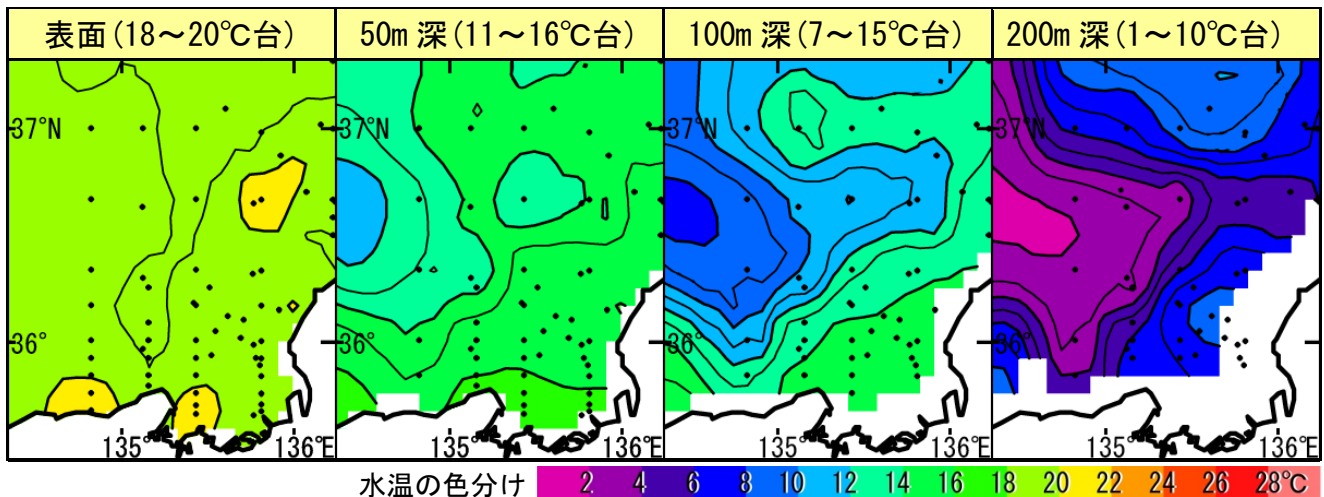
6月上旬における京都府周辺の表層水温は、平年よりやや高めで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2012年6月上旬)

資料元: (独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元: 気象庁, (独)日本海区水産研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み~平年より高め」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年並み」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し*	「平年並み」で推移する見込み

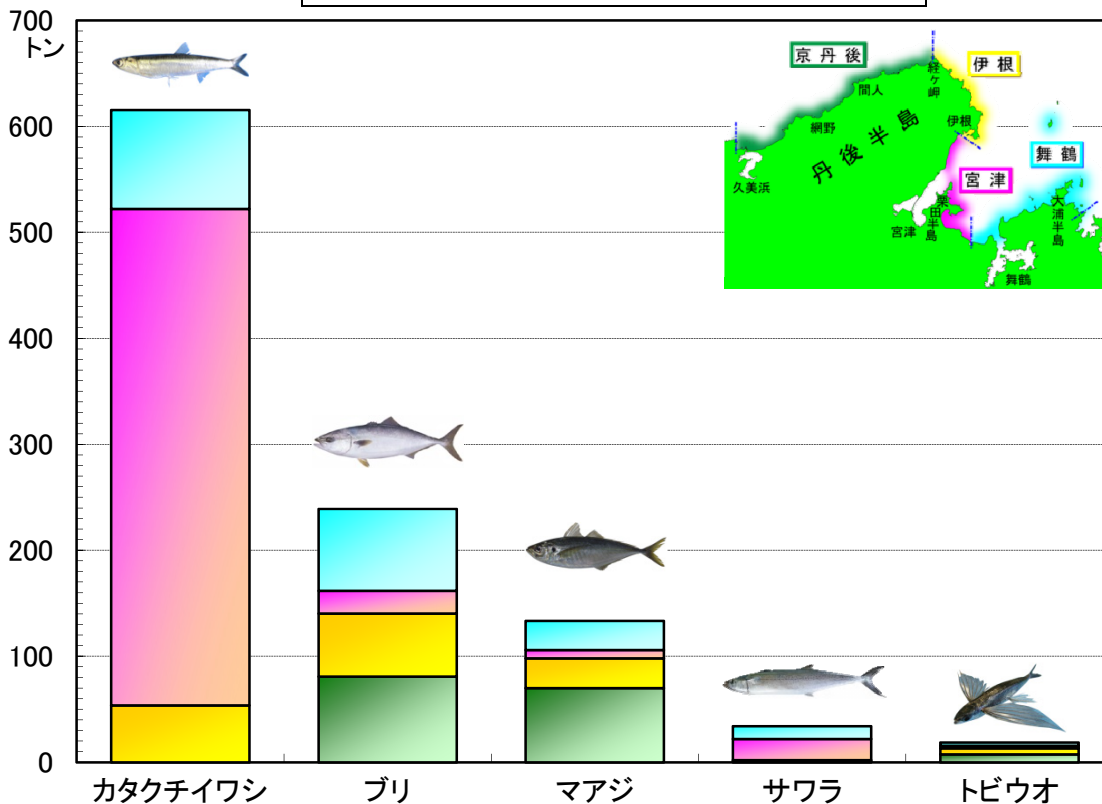
*冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

漁模様 ～2012年5月～

【定置網漁業】

カタクチイワシが好漁でした。全体の水揚量は平年および前年をやや上回りました。

2012年5月の地域別漁獲量(上位5魚種)



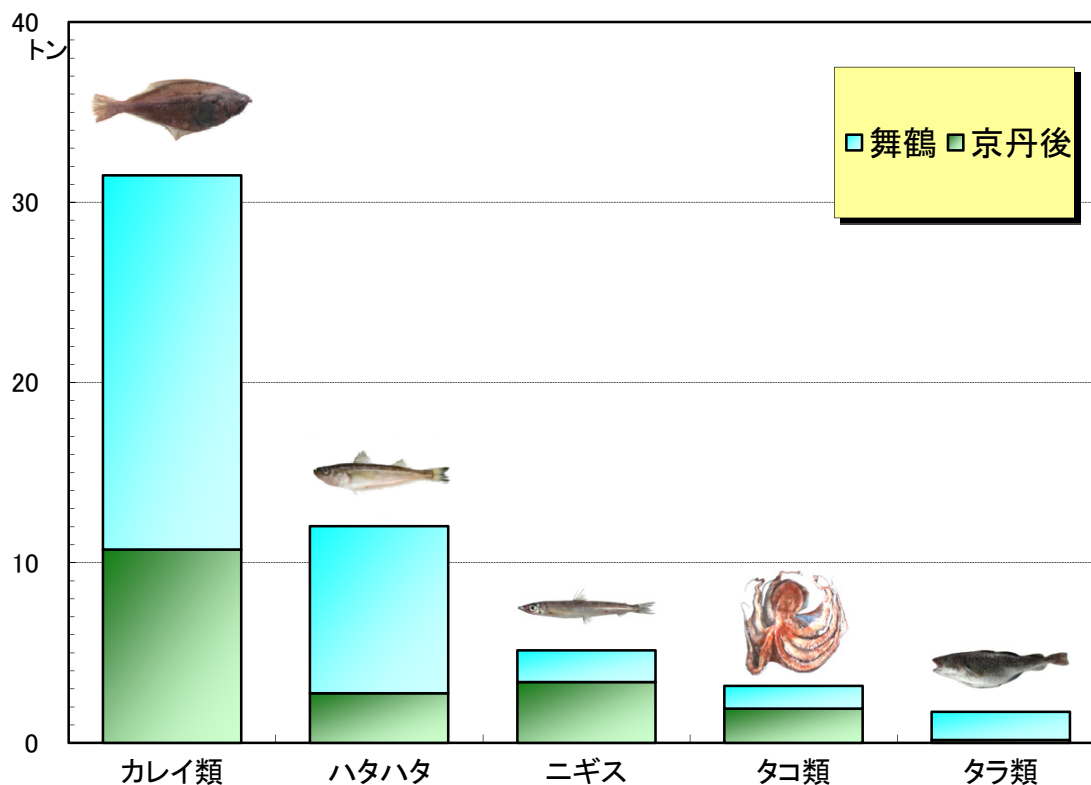
5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
カタクチイワシ(たれ)	615.5	439.0 (140%)	333.2 (185%)	<カタクチイワシ> 体長5～11cm級の小・中たれが中心でした。
ブリ	239.0	68.2 (351%)	201.3 (119%)	<ブリ> つばす銘柄(尾さ長35～43cm級中心)が6割強、はまち銘柄やまるご銘柄(尾さ長54～61cm級中心)が3割強、ぶり銘柄が若干量でした。
マアジ	133.3	159.0 (84%)	316.9 (42%)	<マアジ> さごし銘柄(尾さ長43～51cm級中心)が9割以上、さわら銘柄が若干量でした。
サワラ	33.9	54.2 (62%)	52.5 (65%)	<サワラ> さごし銘柄(尾さ長43～51cm級中心)が9割以上、さわら銘柄が若干量でした。
トビウオ	18.6	0.9 (2156%)	7.0 (267%)	<トビウオ> ケンサキイカ(白いか)が3.5トン、スルメイカ(胴長4～11cm級のしんこいか主体)が3.3トン、アオリイカ(秋いか)が2.3トンなどでした。
カマス類	18.2	5.5 (330%)	8.6 (212%)	
イカ類	15.8	13.4 (118%)	21.4 (74%)	
スズキ	14.3	8.9 (161%)	10.0 (142%)	
タイ類	11.8	20.0 (59%)	10.8 (109%)	
ウマヅラハギ(長はぎ)	8.9	8.3 (107%)	5.4 (165%)	
その他	54.8	271.9 (20%)	111.8 (49%)	
合計	1164.2	1049.4 (111%)	1078.9 (108%)	

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

全体では、前年並みおよび平年の8割の水揚げでした。

2012年5月の漁獲量(上位5魚種)

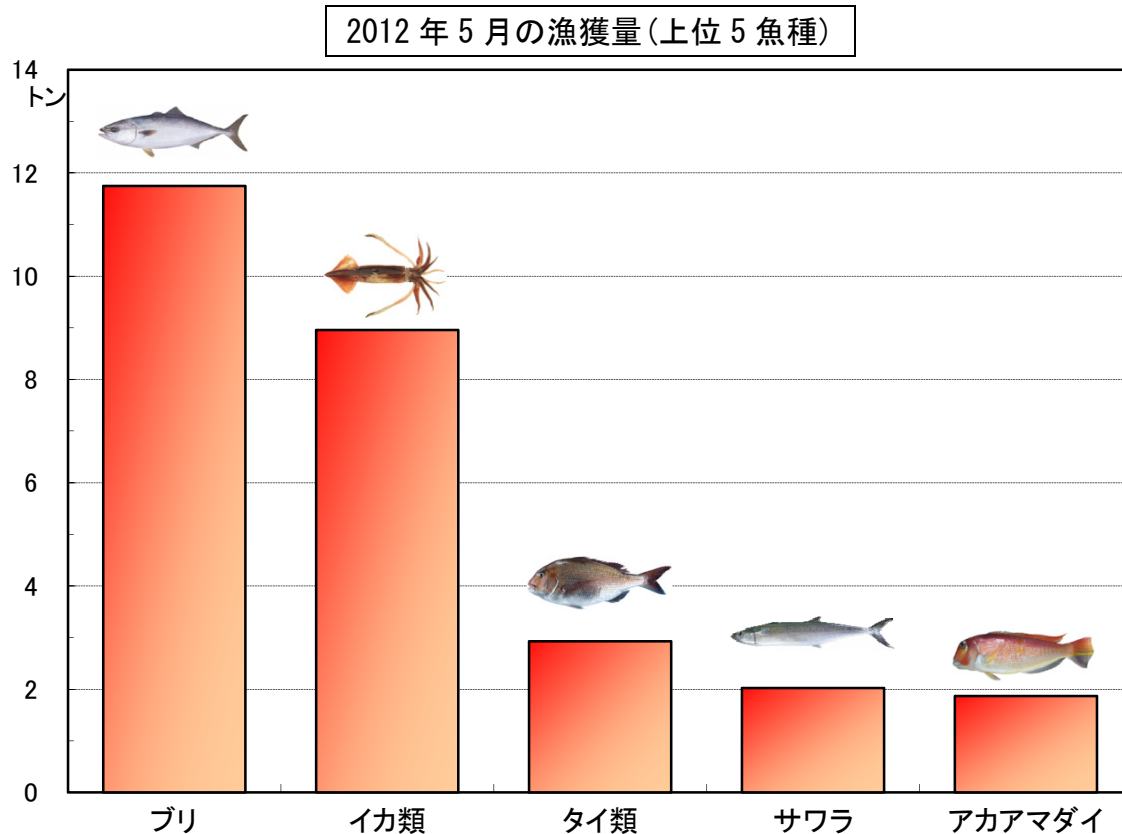


5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
カレイ類	31.5	24.7 (128%)	34.8 (90%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい)が 23.1 トン, ソウハチ(えてがれい)が 5.4 トン, ヒレグロ(黒かれい) が 2.0トンなどでした。
ハタハタ	12.0	17.4 (69%)	20.2 (59%)	
ニギス(沖きす)	5.1	5.1 (101%)	3.5 (145%)	
タコ類	3.2	1.4 (228%)	3.5 (91%)	
タラ類	1.7	1.7 (102%)	0.3 (517%)	
イカ類	1.2	4.5 (28%)	2.9 (42%)	
アンコウ	0.8	1.3 (64%)	2.6 (32%)	
貝類	0.8	0.6 (142%)	0.9 (92%)	
メバル類	0.4	0.2 (204%)	0.4 (110%)	
エビ類	0.4	0.6 (67%)	0.8 (49%)	
その他	3.5	4.1 (86%)	6.4 (55%)	
合計	60.7	61.4 (99%)	76.3 (80%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は、平年並みおよび前年の約8割でした。






5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
ブリ	11.7	13.7 (86%)	11.4 (103%)	<ブリ類> まるご銘柄が6割強, はまち銘柄が3割弱, ぶり銘柄やつばす銘柄が若干量でした。
イカ類	9.0	18.0 (50%)	13.9 (64%)	
タイ類	2.9	3.0 (98%)	2.8 (104%)	
サワラ	2.0	4.2 (48%)	3.3 (61%)	
アカアマダイ(ぐじ)	1.9	1.4 (130%)	1.8 (101%)	
メバル類(もいお)	1.6	1.0 (166%)	2.1 (75%)	<タイ類>
カマス類	1.1	—	—	マダイが5割強, レンコダイが4割弱, クロダイとチダイが若干量でした。
スズキ	0.4	0.5 (85%)	2.0 (21%)	<サワラ>
マアジ	0.4	0.8 (42%)	0.8 (42%)	さごし銘柄が約9割, さわら銘柄が約1割でした。
ホウボウ	0.2	—	—	
その他	2.9	1.7 (169%)	3.7 (77%)	
合計	34.1	44.3 (77%)	42.0 (81%)	

平年は過去10年平均

【トピック ～色々なイカ～】

丹後の海では、イカ類はカタクチイワシやサワラ、アジ類、ブリ類などに次いで水揚げの多い重要な水産資源です。このうち、多獲される種はスルメイカ、ケンサキイカ(白いか)、アオリイカ(秋いか)、ヤリイカ(冬いか)、ソデイカ(たるいか)ですが、風変りなイカも時々みかけます。下の写真は、丹後の海でみかけるイカの一例です。

<p>スルメイカ</p>  <p>胴長：約 30cm 分布：日本各地 特徴：胴の背面には黒い帯があり、胴の約 3 割の長さのひし型のヒレを持つ。</p>	<p>ケンサキイカ(白いか)</p>  <p>胴長：約 40cm 分布：日本海では富山湾以西 特徴：胴の約 7 割の長さのひし型のヒレを持ち、名前のごとく剣の先のような形をしている。</p>	<p>アオリイカ(秋いか)</p>  <p>胴長：約 45cm 分布：日本各地 特徴：胴はヒレを広げると卵型。6 月頃に藻場で産卵、その後ふ化・成長したものが秋に多獲。</p>
<p>ヤリイカ(冬いか)</p>  <p>胴長：約 40cm 分布：日本各地 特徴：ケンサキイカと比べて胴は細く、槍の先のような形をしている。また腕が短い。</p>	<p>ソデイカ(たるいか)</p>  <p>胴長：約 70cm 分布：南日本など暖海域 特徴：胴の長さにもわたるひし型のヒレを持つ大型のイカ。丹後の海では秋が盛漁期。</p>	<p>アカイカ(紫いか)</p>  <p>胴長：約 40cm 分布：日本各地 特徴：スルメイカの仲間。スルメイカに似るが、胴の背面が黒っぽい。</p>
<p>コウイカ</p>  <p>胴長：約 20cm 分布：本州中部以南 特徴：石灰質の硬い甲を持ち、胴の後端には甲の棘が出ている。</p>	<p>カミナリイカ</p>  <p>胴長：約 35cm 分布：本州中部以南 特徴：コウイカの仲間。コウイカより大きくなる。胴の背面には眼のような模様が散らばる。</p>	<p>ヒョウモンコウイカ</p>  <p>胴長：約 30cm 分布：日本海では富山湾以西 特徴：コウイカの仲間。胴の形はコウイカより細長く、背面に橙色の斑点が散らばる。食用。</p>
<p>シリヤケイカ</p>  <p>胴長：約 20cm 分布：日本海では富山湾以西 特徴：コウイカの仲間。胴の背面後端から赤褐色の分泌物が出る。年によっては春に漁獲が多い。</p>	<p>シシイカ</p>  <p>胴長：約 10cm 分布：日本海では富山湾以西 特徴：コウイカの仲間。コウイカより細長い。成熟したオスは、一部の腕がとても長い。食用。</p>	<p>サメハダホウヅキイカ</p>  <p>胴長：約 10cm 分布：世界中の暖海域 特徴：胴がホウズキのような形で、その表面には結晶性の粒が散らばりサメ肌のようにざらつく。</p>

ユウレイイカ	ホタルイカ	ダイオウイカ
 <p>胴長：約 30cm 分布：主に南日本の中・深層 特徴：胴は細長く、後端に円形のヒレを持つ。太い腕と細い腕には、発光器が1列に多数並ぶ。</p>	 <p>胴長：約 7cm 分布：日本海では各地の中・深層 特徴：全身に多数の発光器を持ち、青白く光る。若狭～山陰地方では春に底曳網で漁獲。</p>	 <p>胴長：約 1m 以上 分布：北太平洋や北大西洋 特徴：巨大イカ。冬場に衰弱または死んだ個体が時々丹後沿岸に漂着する。</p>

写真以外では、ダンゴイカの仲間も魚市場で見かけます。

【参考文献】

- ・「新日本動物図鑑(中)」(北隆館)
- ・「図説 魚と貝の大事典」(柏書房)
- ・「旬の食材 四季の魚」(講談社)